

感化の大部分は母より受くるものなれば、母たるものの卑劣なる根性、懦弱なる氣質は何時の間にやら默示に従て其子女の心に染み來るものであるから女とし云へば斯かる缺點の存するものなりと認めらるゝことのなき様、其品性を高め社會の望みに添はんこと切に期する處である。

婦人の心得

三河境川源 近藤とき子

幼な兒の父母の膝下に在りて物いふ事を習ひ初むるに當りて犬猫の啼聲雀鴉の啼聲など父母の言はるゝまゝを真似ていつしか犬は「ワン、ワン」猫は「ニヤア、ニヤア」と啼き雀は「チュウ、チュウ」鴉は「カア、カア」と啼くよしを悟るなり、是等の單一

なる發音をはじめとしてよろづの事物の名稱を次第々々に覺ゆるは幼兒の自から發明せるにあらざして必ず父母より授づかりたるなり、中にも母は家に在り整理を行ふ下に子の教育を爲すものなれば、其の母たるものは身を慎しみ相應の學力を脩め子の善き様家庭に教育を施すべし、まして第二の母たる女子は男子に歩を譲らざるの精神を具し教育を受けざるべからず、聊か記して注意を惹く爾。

幼者の教導につきて

東京 和田 藏子

幼なき者は、後々には、國家を組織するの任に當るもので、其の身體の健かなるも弱きも、性質